

## 自己紹介及び環境に関する取組みについての意見交換会

### 1 自己紹介

- ・お名前（学識経験者の方は自分の所属する団体も併せてお願いします。）
- ・個人または団体で行っている環境に関する取組みを教えてください。

### 2 脱炭素を促進する取組みについて考えてみましょう。

令和7年2月に閣議決定により、国のエネルギー基本計画及び地球温暖化対策計画が改訂されました。

エネルギー基本計画では、2040年における電源構成の再生可能エネルギー比率を40～50%とすること（2022年度は14.1%）、原子力発電の比率を20%程度とすること（2022年度は5.5%）等を目標に掲げています。

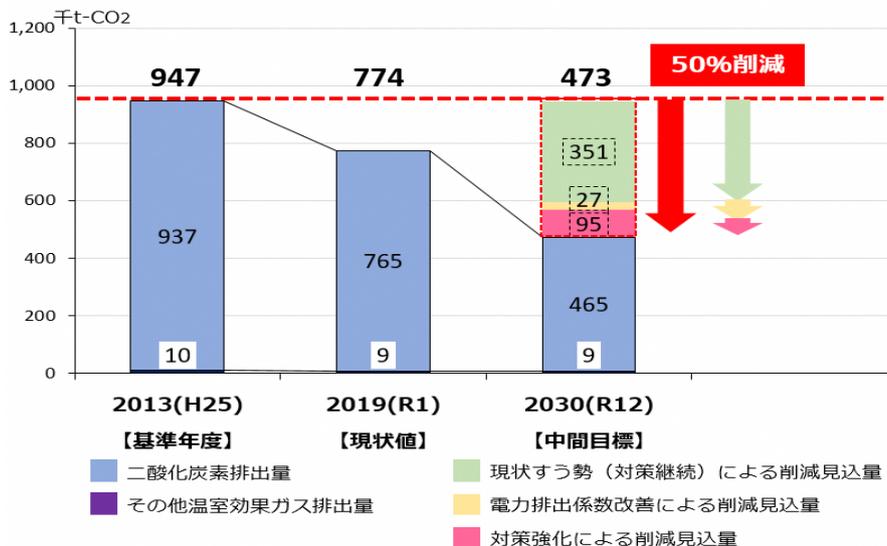
地球温暖化対策計画では、2013年度を基準年度として、2035年度、2040年度において、温室効果ガスをそれぞれ60%、73%削減することを目標に掲げています。

それぞれの計画において、2030年度の目標値を上回る目標を設定している一方で、2030年度の目標達成も危ぶまれる状況となっています。

2022年度の温室効果ガスは22.9%削減にとどまり、目標との乖離も見られます。

久喜市においても、改訂前の地球温暖化対策計画の目標値を目安に温室効果ガス排出量について、2030年度までに2013年度比で50%削減することを第2次久喜市環境基本計画の計画目標としておりますが、2022年度の温室効果ガス排出量は763千t-CO<sub>2</sub>となっており、削減率は19.4%となっています。

#### 【第2次久喜市環境基本計画における温室効果ガス排出削減目標】



このような状況の中、久喜市（市民、事業者、行政）が脱炭素化を進めていくためにどのように取り組んでいくべきか、また、取組みを広げていくための方策について、忌憚ない議論をお願いします。

## 【参考】2030年度におけるエネルギー需給に関する政府目標

## エネルギー需給の実績と目標について

	2010年度	2013年度	2021年度	2022年度	2030年度 (政府目標)	
エネルギー自給率	20.2%	6.5%	13.3%	12.6%	30%	
最終エネルギー消費量	3.8億kl	3.6億kl	3.2億kl	3.1億kl	2.8億kl	
1次エネルギー供給の化石燃料割合	81.2%	91.2%	83.2%	83.4%	68%	
電源構成	火力発電	65.4%	88.3%	72.8%	72.8%	41% (3,840億kWh)
	石炭	27.8%	32.9%	31.0%	30.8%	19% (1,780億kWh)
	LNG	29.0%	40.9%	34.4%	33.8%	20% (1,870億kWh)
	石油等	8.6%	14.4%	7.4%	8.2%	2% (190億kWh)
	再生可能エネルギー	9.5%	10.9%	20.3%	21.7%	36~38% (3,360~3,530億kWh)
	太陽光	0.3%	1.2%	8.3%	9.2%	14~16% (1,290~1,460億kWh)
	風力	0.3%	0.5%	0.9%	0.9%	5% (510億kWh)
	水力	7.3%	7.3%	7.6%	7.6%	11% (980億kWh)
	地熱	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	1% (110億kWh)
	バイオマス	1.3%	1.6%	3.2%	3.7%	5% (470億kWh)
原子力	25.1%	0.9%	6.8%	5.5%	20~22% (1,880~2,060億kWh)	
エネルギー起源CO2排出量	11.4億t	12.4億t	9.9億t	9.6億t	6.8億t	

出典：総合エネルギー統計（2022年度確報）、2030年度におけるエネルギー需給の見通しをもとに資源エネルギー庁作成

## 【参考】2040年度におけるエネルギー需給の見通し

- 2040年度エネルギー需給の見通しは、諸外国における分析手法も参考としながら、**様々な不確実性が存在することを念頭に、複数のシナリオを用いた一定の幅として提示。**

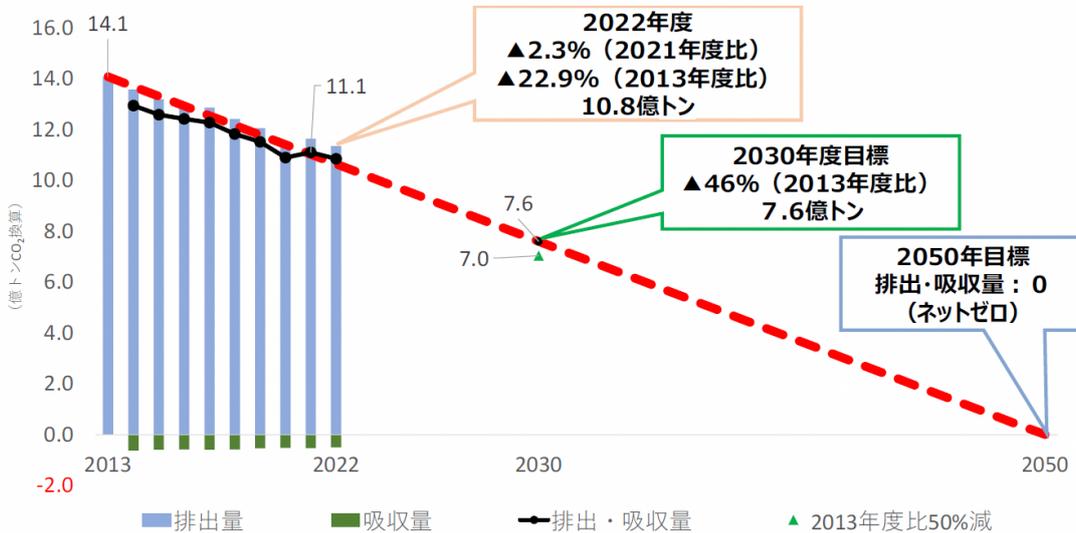
	2023年度 (速報値)	2040年度 (見通し)	
エネルギー自給率	15.2%	3~4割程度	
発電電力量	9854億kWh	1.1~1.2兆kWh程度	
電源構成	再エネ	22.9%	4~5割程度
	太陽光	9.8%	23~29%程度
	風力	1.1%	4~8%程度
	水力	7.6%	8~10%程度
	地熱	0.3%	1~2%程度
	バイオマス	4.1%	5~6%程度
	原子力	8.5%	2割程度
火力	68.6%	3~4割程度	
最終エネルギー消費量	3.0億kL	2.6~2.7億kL程度	
温室効果ガス削減割合 (2013年度比)	22.9% ※2022年度実績	73%	

(参考) 新たなエネルギー需給見通しでは、2040年度73%削減実現に至る場合に加え、実現に至らないシナリオ（61%削減）も参考値として提示。73%削減に至る場合の2040年度における天然ガスの一次エネルギー供給量は5300~6100万トン程度だが、61%削減シナリオでは7400万トン程度の見通し。

(参考) 地球温暖化対策計画における温室効果ガス排出量削減目標 (改訂前)

## 2030年度目標及び2050年ネットゼロに対する進捗

- 2022年度の我が国の温室効果ガス排出・吸収量は約10億8,500万トン (CO<sub>2</sub>換算) となり、2021年度比2.3%減少 (▲約2,510万トン)、2013年度比22.9%減少 (▲約3億2,210万トン)。
- 過去最低値を記録し、オントラック (2050年ネットゼロに向けた順調な減少傾向) を継続。



(参考) 地球温暖化対策計画における温室効果ガス排出量削減目標 (改訂後)

## 次期削減目標 (NDC)

- 我が国は、**2030年度目標と2050年ネット・ゼロを結ぶ直線的な経路を、弛まず着実に歩んでいく。**
- 次期NDCについては、**1.5℃目標に整合的で野心的な目標**として、2035年度、2040年度において、温室効果ガスを2013年度からそれぞれ**60%、73%削減**することを目指す。
- これにより、中長期的な**予見可能性**を高め、**脱炭素と経済成長の同時実現**に向け、**GX投資を加速**していく。

